

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	友原 嘉彦	職名	准教授	学位	博士 (学術) (広島大学 2011 年)
----	-------	----	-----	----	-----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
観光社会学	クリエイティブツーリズム、サードエリア

研究課題
<p>2020 年度に取り組んだのはさくらももこ研究である。応募者の現行までの研究における集大成となっている。それを以下に整理したい。</p> <p>①後期近代を豊かに生きるという視点において、クリエイティビティを發揮して、その先駆者的存在であったさくらももこは性別的には女性であり、後期近代に生きるクリエイティブクラスの女性を体現している。</p> <p>②受信・発信力のあるクリエイティブクラスの女性の観光を研究したものは少なく、脈脈の広がりが大きく、かつ、男女共同参画社会において意義がある。</p> <p>③2020 年度の学会報告では、さくらももこを活かした静岡市の観光振興とアイデンティティ形成について論じた。さくらももこはこれまで偉人として扱われにくかった女性であり、また、没後まだ 3 年である。今後の静岡市の展開について継続的に見ていきたい。</p> <p>④クリエイティブクラスの女性が観光をどのように人生の中で位置付けているのかを考察することは、現代を生きる女性、あるいは現代人全般について大きな示唆を与えてくれるだろう。</p> <p>⑤友原はサードプレイス論から着想を得た「サードエリア論」を提唱しているが、さくらももこの「サードエリア」は国境を越える。応募者はこれまで培ってきた国際性においても充分これにかかる研究を成す能力を有している。</p> <p>今後の研究の構想は以下の通りである。</p> <p>①アーティストさくらももこを活かした持続可能な観光振興と地域アイデンティティづくりについて (継続。清水、静岡)</p> <p>②アーティストさくらももこを事例としたクリエイティブクラスの好む持続可能な地域空間づくり (新型コロナウイルス関連の動向次第であるが、パリ、アルザス地方、ロッテルダムなど)</p>

担当授業科目
<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期：「初年次セミナーⅠ」、「ツーリズム英語」、「欧米観光文化地理Ⅰ」、「観光フィールドワーク」、「観光学入門」</li> <li>・後期：「初年次セミナーⅡ」、「欧米観光文化地理Ⅱ」、「フィールドワーク入門」、「旅行産業論」、「地域活性化研究」</li> <li>・通年：「卒業研究」</li> </ul>

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 卒業研究 】</p> <p>3 年次のゼミ「専門演習Ⅱ」からの流れを踏まえ、1 年間を通して卒業論文執筆の助言に費やした。特に夏季において、入念に調査研究を行なってくれたこともあり、結果、受講生全員が学士として相応しい水準の論文を執筆することができた。</p>

<p>授業科目名【 初年次セミナーⅡ 】</p> <p>本科目は1クラス30名規模の一年次後期の演習である。友原嘉彦編(2017)『女性とツーリズム 観光を通して考える女性の人生』古今書院、を教科書に選定し、これをクラスで輪読、観光を切り口として特に近代後期における女性の人生を検討した。</p>
<p>授業科目名【 初年次セミナーⅠ 】</p> <p>本科目は1クラス10名規模の一年次前期の演習である。受講生各自の気になるニュースの紹介などから、それらを全員で吟味、多様な角度から検討することで、大学という世界の物の見方や考え方について、これらの能力を涵養した。</p>
<p>授業科目名【 欧米観光文化地理Ⅰ 】</p> <p>西欧の観光地域、観光都市を取り上げ、それらの観光地としてのあり方・魅力・誘因力について講義を行なった。地図や画像、グラフもふんだんに用いて、理解の定着努めた。定期試験だけでなく、月1回のペースでレポートも執筆してもらい、日頃からの勉学の習慣付けに努力した。</p>
<p>授業科目名【 観光社会学 】</p> <p>教科書を用いて講義を行なったが、加えて、関連する新聞・雑誌記事も用いて、理解の定着に努めた。定期試験だけでなく、月1回のペースでレポートも執筆してもらい、日頃からの勉学の習慣付けに努力した。</p>
<p>授業科目名【 欧米観光文化地理Ⅱ 】</p> <p>東欧の観光地域、観光都市を取り上げ、それらの観光地としてのあり方・魅力・誘因力について講義を行なった。地図や画像、グラフもふんだんに用いて、理解の定着努めた。定期試験だけでなく、月1回のペースでレポートも執筆してもらい、日頃からの勉学の習慣付けに努力した。</p>
<p>授業科目名【 観光フィールドワーク 】</p> <p>北九州市、および、その周辺地域を対象地として観光フィールドワークを行なってもらった。定期試験は行なわず、フィールドワークの前後に過程を口頭発表してもらった。また、最終的にはフィールドワークの成果も発表してもらった。</p>
<p>授業科目名【 ツーリズム英語 】</p> <p>アガサ・クリスティの推理小説『オリエン特急殺人事件』の原文を教科書に選定し、輪読するとともに、20世紀初頭から第二次世界大戦前までにおける欧州の旅行のあり方についてもレジュメで補い、総じて観光史の知識・教養を身に付けた。</p>
<p>授業科目名【 フィールドワーク入門 】</p> <p>最大3名までの小グループを作ってもらい、北九州市、および、その周辺地域を対象地としてフィールドワークを行なってもらった。定期試験は行なわず、フィールドワークの前後に口頭発表をしてもらった。予め、フィールドワークの意義や方法を説明してからの催行であり、各グループはそうした諸点を踏まえ、熱心に調査することができた。</p>
<p>授業科目名【 旅行産業論 】</p> <p>ポスト・新型コロナウイルスの観光のあり方について、産業面から議論した。議論の展開として、マスツーリズムからの脱却、およびそれに伴う個人旅行の誘致となり、そのためには土地のクリエイティブ性を上げていくことが重要だと結論付けられた。</p>
<p>授業科目名【 地域活性化研究 】</p> <p>地域がクリエイティブかどうかは、地域が活性するかどうかにかかり、1つの大きな要因となっている。本講ではこうした点を踏まえ、クリエイティブな都市とそうでない都市とは何がどのように異なるのか、国内外の事例や研究者の言説を紹介し、検討した。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本国際観光学会 日本観光研究学会 観光学術学会 コンテンツツーリズム学会 日本マンガ学会		2008年4月～現在に至る。 2008年7月～現在に至る。 2012年7月～現在に至る。 2020年4月～現在に至る。 2020年4月～現在に至る。

2020年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文) 「女性クリエイターの観光に対する行動と捉え方 ―さくらももこ『ちびまる子ちゃん』を事例として―」	単著	2021年3月	西南女学院大学、西南女学院大学紀要(25)pp.93-101	本研究はさくらももこの代表作「ちびまる子ちゃん」を通して、女性クリエイターの観光に対する行動と捉え方を考察したものである。さくらの幼少期を投影したキャラクターであるまる子がタイの南の島に滞在した話を掘り下げて確認することで、さくらが観光活動においてどのように振る舞い、また、観光をどのように捉えているのかが明らかになった。まる子はプサディーという地元の子と懇意になることでタイの南の島が自分と密接に関係する地域となり、継続的に関わっていきたい対象である「サードエリア」となった。女性クリエイターさくらももこの観光は第一義的に「『サードエリア』の構築活動」であることが示された。
(翻訳)				
(学会発表) 「偉人の世界観を活用した地域アイデンティティの創出と観光振興 さくらももこと静岡市を事例として」(第9回観光学術学会全国大会が開かれる予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため口頭発表は行なわれず、代わりに研究報告要旨集として公開された)	単独	2020年7月	観光学術学会2020年度研究報告要旨集、pp.24-25 (同年同月発行)	後期近代適合型女性として、さくらももこを取り上げた。彼女の偉人としての出身地における扱われ方と同地の観光資源としての扱われ方の両面から調査、検討を行なった。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

図書委員会 副委員長
------------